

## 小児救急・災害医療コース

主たる研修病院 (所属病院)	東京都立小児総合医療センター	
連携して研修する病院・ 施設(予定)	都立広尾病院(予定)	
研修時に必要と する知識・技量 (応募資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急科専門医と小児科専門医の取得、または取得相当のスキルがあること</li> <li>日本DMATや東京DMATの資格は問わないが、資格取得の意志があること</li> </ul>	
コース 責任者	氏名(所属)	萩原 佑亮(東京都立小児総合医療センター 救命救急科)
	資格名	救急科専門医・指導医・評議員、小児科専門医・指導医、日本中毒学会認定クリニカルトキシコロジスト、公衆衛生学修士(専門職) 東京都地域災害時小児周産期リエゾン、日本DMAT隊員、東京DMAT隊員
	専門分野	小児救急医学、臨床疫学
臨床指導体制	<p>当科は、日本最大規模の小児専門ERを管理・運営している。当院ERで、臨床業務をこなし、かつ、その統括的マネジメント能力を獲得することができれば、日本における小児救急医学におけるリーダーシップを発揮できる人材となりうる。当科は、救急科専門医と小児科専門医のダブルボードを持つ者が多く在籍し、小児救急医学を専門としている稀有な組織であるため、その指導体制は確立している。</p> <p>災害医療に関しては、災害弱者と言われる小児のために、救急医と小児科医のふたつの視点から災害医療を捉え、都立広尾病院の減災対策支援センターの協力のもと、どうやって具現化していくか検討する。標準化コースやDMAT研修によって、災害医療に関するスキルも獲得可能である。</p> <p>当科は、日々の臨床を科学的知見として蓄積することを文化しており、論文などの多くのアウトプットを実施している。臨床研究支援センターとも協力し、科学的知見の蓄積に貢献する。</p>	
臨床 研究	これまで 行ってきた 研究と実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児救急外来における緊急気道管理に関する研究(多施設共同研究、セントラル)</li> <li>小児救急外来における経過観察ユニット(Observation Unit)に関する研究</li> <li>小児救急外来における処置時の鎮痛鎮静に関する研究</li> <li>小児の傷害予防研究</li> <li>小児救急医学に関する症例報告</li> </ul> <p>など、10年間で約100編の論文実績あり</p>
	今後行う 研究と 研究体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児救急外来における緊急気道管理に関する研究(多施設共同研究、セントラル)</li> <li>小児救急外来における処置時の鎮痛鎮静に関する研究</li> <li>小児の傷害予防研究</li> <li>小児救急医学に関する症例報告</li> <li>小児救急外来におけるPOCUSの有用性に関する研究</li> <li>小児救急外来におけるプレパレーションとディストラクションに関する研究</li> <li>小児専門病院における災害対策の課題</li> </ul>
研修項目	<p>今まで我が国に存在しなかった統合的な専門家を育成することを目的としているため、それぞれの分野における専門家のもとで研修を重ねることで知識やスキルの獲得を目指す。</p> <p>まず、災害医療は平時の救急医療の延長線上にあるため、小児救急外来におけるスキル向上は必須である。第二に、災害対策のレジスティクスなどを学ぶため、MIMMSやMCLSなどの災害医療標準化コース、東京DMAT・日本DMAT研修、国際緊急援助隊研修などに積極的に参加する。日本DMAT事務局や都立広尾病院の減災対策支援センターなどでの研修もを予定し、東京都医師アカデミー・災害医療研修・実践研修の講師を担当するなどアウトプットの機会を設けることで、自身のインプットを増強させる。第三に、災害時における地域の小児救急医療の維持のため、平時からの医療連携システム構築、医療的ケア児の現状把握といった各論的な研修にも取り組む。院内の在宅支援部門や家族支援部門などの横断的な診療部門や地域の療育センターや保健所における研修機会を設け、現状把握に努め、未来的思考で災害対策に応用する。</p>	
研修内容・達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児専門ERIにおける臨床業務と後進への臨床教育</li> <li>小児専門ER全体を統括するマネジメント</li> <li>院内の横断的診療科への研修</li> <li>院内、ないし、地域の災害医療体制の構築のための災害医学の基本的知識の獲得(都立広尾病院 減災対策支援センターと協力)</li> <li>東京DMAT研修への参加、日本DMAT研修への参加(参加は抽選のため、その結果次第)</li> <li>東京都の地域災害小児周産期リエゾン研修へ参加</li> <li>MIMMSやNDLSなどの災害医療標準化コースの受講</li> <li>院内災害対策室への参加</li> <li>東京都医師アカデミー・災害医療研修・実践研修の講師を担当して、アウトプットを実行する</li> <li>小児救急医学、災害医学に関する研究の実施</li> </ul>	
コース内容に関する 問合せ先	東京都立小児総合医療センター救命救急科 萩原佑亮 (代表電話:042-300-5111)	